



# 市民のみなさんと市長が直接対話 まちづくり懇談会

市では、市民が主役のまちづくりを目指して、昨年度から、市民のみなさんと市長が直接対話する「まちづくり懇談会」を住民自治組織と協働で開催しています。5月開催の竹原第1地区でいただいたご意見の一部をご紹介します。

5 / 29開催

竹原第1地区協働のまちづくりネットワーク

旧中四国フェリー跡地等を活かした今後のまちづくり

平成16年頃から国・県・市・地元が連携して、「みなとオアシスたけはら」の取組みを続けている。県がビクター棧橋を整備することは、市にとって、チャンスだと思ふ。旧中国四国フェリー事務所の活用を含め、国・県・市・地元を巻き込んだ議論が必要である。市はコーディネーターとして重要な役割を果たしていくことが今後の課題ではないか。

**答**

竹原第1地区のみなさんを中心とした港のにぎわいづくり「みなとオアシスタけはら」の積極的な活動に対し、感謝しています。

旧中四国フェリー事務所の跡地活用の基本的な考え方として、「観光の拠点」、「まちづくりの拠点」、「海と陸の交通結節点」の3点を大きな柱として位置づけています。



竹原第1地区協働のまちづくりネットワーク  
会長 中尾 泰美さん

まちづくり懇談会を終えて・・・

こちらの意見をきちんと受け止めてもらえたと思います。行政の姿勢が市民にはわかりにくい部分があったので、このような機会を設けてもらえて良かったです。

参加されたみなさんには、この度の会のことを身近な人にも広げていただきたいです。そうすることで、市役所と市民の距離がより一層縮まり、まちづくりの主役は自分たちなのだと、いうことを再認識してもらえたらいいと思います。

市民と行政が一体となって既存の港湾施設を有効活用し、地域の活性化、港のにぎわい、観光振興などを協働のまちづくりとして推進していきたいと考えています。具体的には、1階部分は港湾利用者のためのターミナルとしての改修を行う予定です。2階、3階の利活用については、住民のご意見をいただく中で、今年度に基本的な方針を定めていきます。引き続き、瀬戸内海の美しい自然や歴史、文化を活かした中四国フェリー跡地の利活用について、地域のみなさんと一緒に推進していきます。

**答**

道路の陥没や防波堤の現地調査を行い、速やかに補修を行うよう、県に対して要望していきます。市としても、引き続き浸水対策に努め、安心・安全なまちづくりに積極的に取り組んでいきます。

安心安全なまちづくりに向けた地盤沈下・浸水対策

県事業により、本川に水門を建設中だが、新たに積み上げられた防潮堤に半年もしないうちに亀裂が入っている。これは、以前からの課題である道路の地盤沈下と関係があるのではないか。

## 瀬戸内海クルーズ

問い合わせ 観光交流室 ☎ 22-7745

広島空港に最も近い、瀬戸内海の中央に位置する竹原港を拠点として、8月末までカタマランヨットによる無人島、花火大会クルーズなどが実施されます。

カタマランヨットは、雨の日でもヨットで快適に過ごせる環境を備え、傾きも少ないことから、ヨットの経験がない人も、安心して乗船することができます。この機会に、ヨットの魅力を体験してみませんか。

詳しくは、A2A CRUISE のホームページをご覧ください。

<http://asiato.asia/ja/a2aspecialcruise/fireworks>

